

P-403 肺腺癌における GA733family 遺伝子の発現小林 弘美¹・南 優子¹・穴見 洋一¹・近藤 謙¹中里 宣正¹・葛 幸治²・林 真一郎²・野口 雅之¹筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 診断病理¹；国立がんセンター中央病院 臨床検査部²；佐賀大学 医学部 呼吸器内科³

GA733 family 遺伝子には GA733-2 (Ep-CAM) および GA733-1 (Trop-2) が含まれ、両者は多くのヒト上皮系腫瘍で高発現していることが知られている。GA733-2 は上皮細胞の接着分子として働き、生体内でその発現は上皮の増殖を亢進し、また発癌や腫瘍の進展にも関連があるといわれている。一方、我々は不死化異型腺腫様過形成細胞株 (PL16T) と不死化正常気管支上皮細胞株 (PL16B) の間での発現プロファイルの比較解析を行い、GA733-2 と相同性のある GA733-1 が PL16T に過剰発現していることを明らかにした (Shimada A et al, Cancer Sci 2005)。GA733-1 は細胞内カルシウムシグナルを変換し細胞表面レセプターとして働き、癌細胞の成長を制御しているといわれている。今回我々は、予後の明らかな 2cm 以下の原発性小型肺腺癌 133 例 (野口分類：Type A 12 例, Type B 14 例, Type C 66 例, Type D 27 例, Type E 8 例, Type F 6 例) における GA733 family 遺伝子の発現を免疫染色にて評価し、その生物学的意義を検討した。肺腺癌では GA733 family 遺伝子はいずれも 90% 以上に発現しており、予後との比較にて、GA733-2 は発現が高いほど有意に予後良好であり ($p=0.0091$)、また GA733-1 では有意差はみられなかったが同様に発現が高いほど予後良好である傾向がみられた。また GA733-2 は Type C 症例に限っても発現が高いほど有意に予後良好であり ($p=0.0101$)、同じ組織型の中で予後良好な群と不良な群の混在する Type C 症例において GA733-2 を用いた免疫染色は術後の予後予測に有用であると考えられた。